

## 資料編

### 1 アンケート結果報告（抜粋）

#### 調査目的

住民の福祉観や地域との関わりなどの実態を把握し課題を抽出するとともに、社協や地域福祉に関する意見、提言を聞き、推進計画策定に反映することを目的とする。

#### 調査対象

次の団体及び個人に調査を依頼する。

- (1) 老人クラブ
- (2) 民生委員児童委員
- (3) 区長会
- (4) 子ども会
- (5) 身体障がい者福祉会
- (6) 手をつなぐ育成会
- (7) ボランティア
- (8) 子育て学習センター利用者
- (9) 社協介護サービス利用者

#### 調査方法

- (1) ～ (7) 郵送による配布、回収
- (8) 子育て学習センターの協力により利用者に配布、郵送による回収
- (9) 社協事業参加者、介護サービス利用者へ配布、郵送による回収

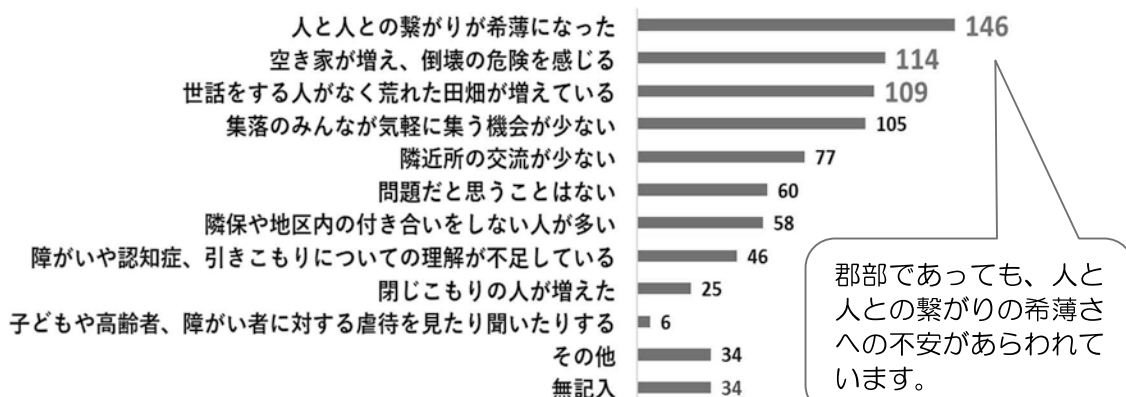
#### 調査期間

令和2年9月

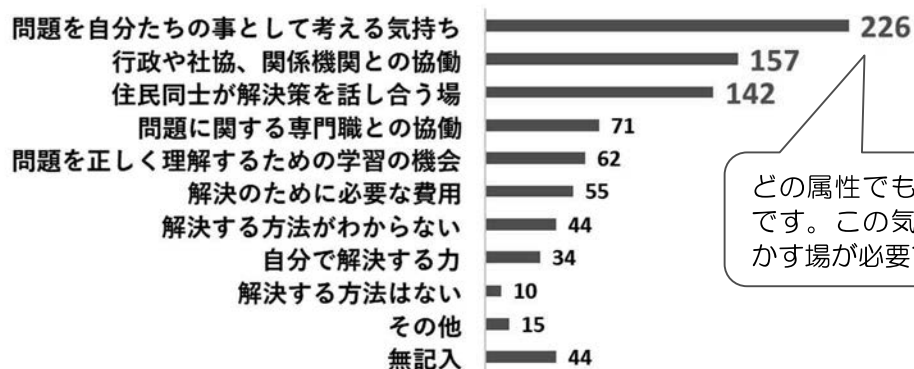
#### 回収結果

配布数	553
回収数	429（うち無効票数 0）
有効票数	429
有効回収率	77.58%

#### お住まいの地域で問題だと思うことは？ n=429

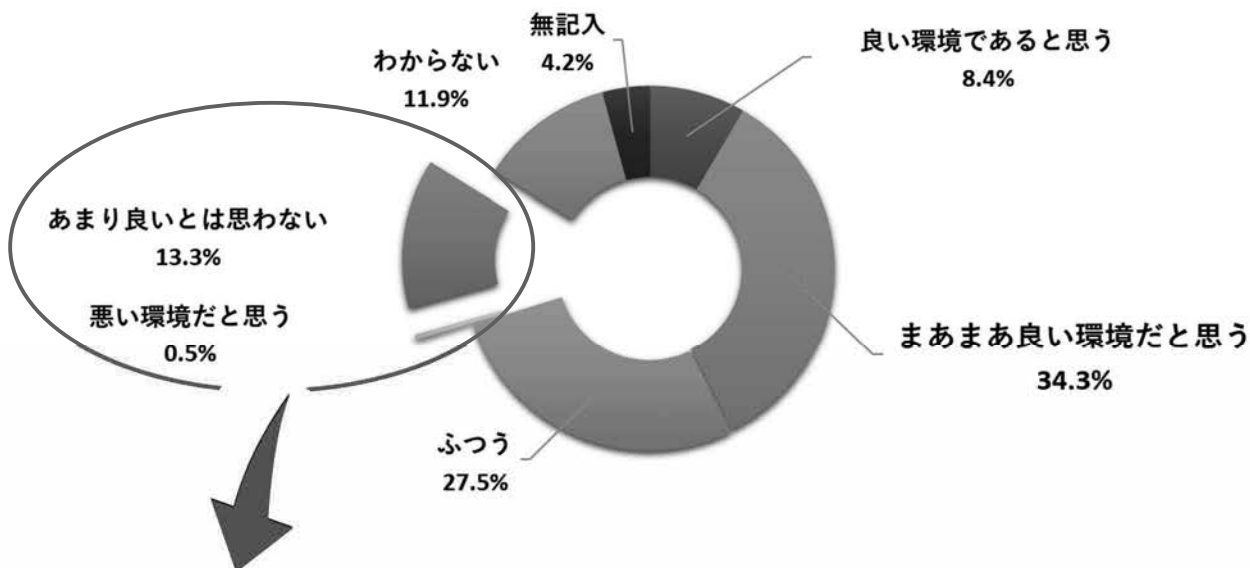


地域の問題を解決するために必要なものは？ n=429

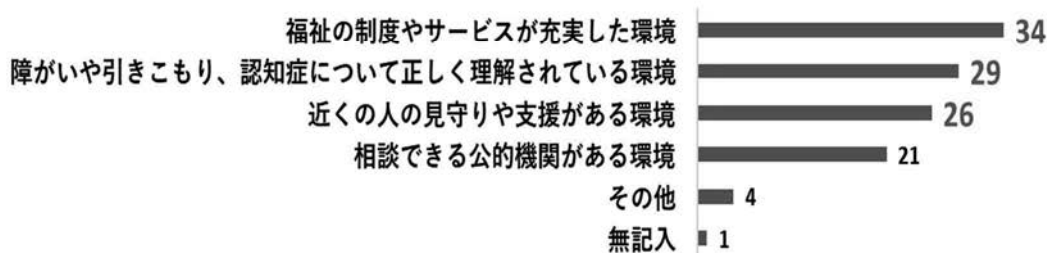


どの属性でも一番高いです。この気持ちを活かす場が必要です。

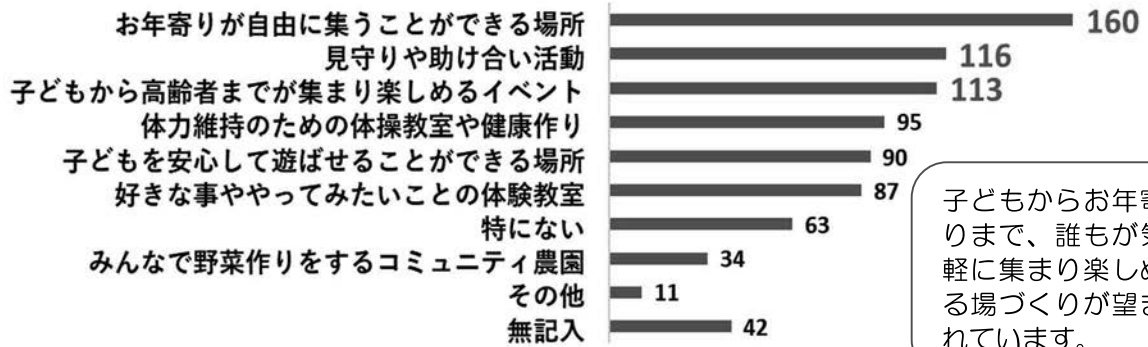
神河町は、障がいを持つ人や引きこもりの人、認知症の人やその家族にとって住みよい環境だと思いますか？ n=429



どんな環境であれば、障がいを持つ人や引きこもりの人、認知症の人やその家族が暮らしやすくなると思いますか？ n=59



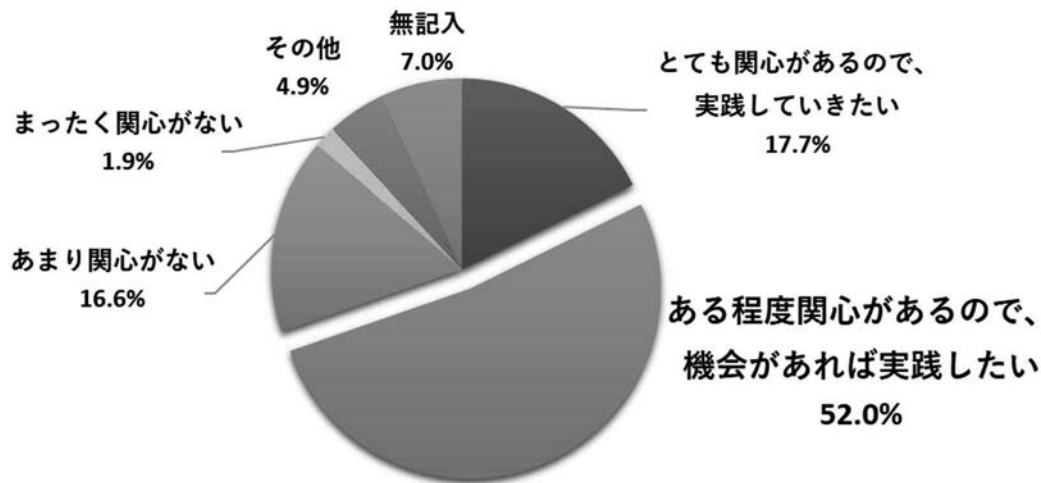
地域にあればうれしい、参加したいと思うことは？ n=429



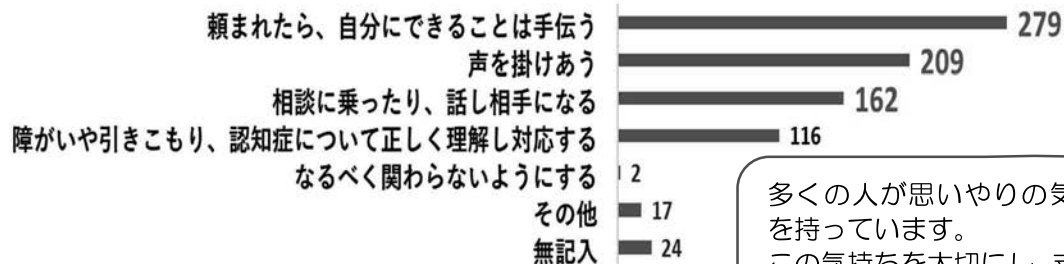
子どもからお年寄りまで、誰もが気軽に集まり楽しめる場づくりが望まれています。

地域での見守りや支え合いに関心を持っていますか？

n=429

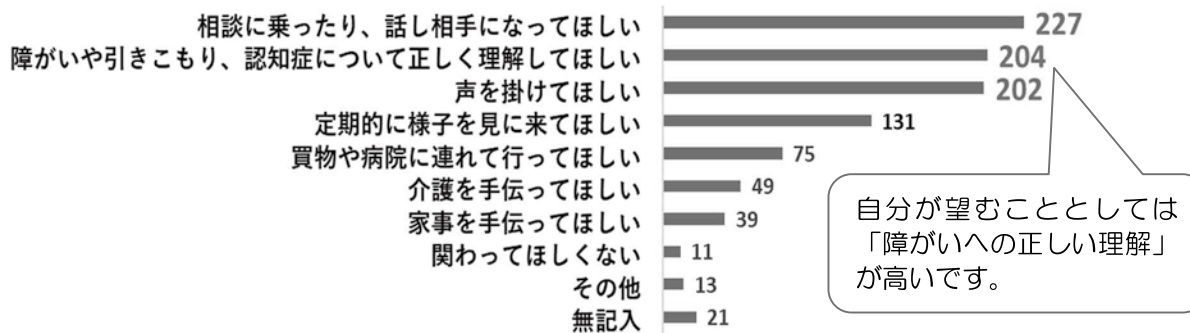


障がいを持つ人や引きこもりの人、認知症やその家族が近所におられたら、あなたはどのようにお付き合いされますか？ n=429



多くの人が思いやりの気持ちを持っています。この気持ちを大切に、支えあいの地域づくりを進めます。

あなたやあなたの家族が障がいを持ったり、ひきこもりや認知症になった場合、近隣に何を望みますか？ n=429



### ＜アンケート結果から見てきたこと＞

- 住民は、先への不安を感じている。  
(高齢になったら… 免許を返納したら… 認知症になったら…)
  - 少子高齢化の流れは止められない。その中で、何をどうしていくか。
  - 住民は「相談にのってほしい」「訪問して話を聞いてほしい」と感じている。
  - 一人ひとりに寄り添った相談体制が求められている。
  - 気軽に行ける身近な集い場が求められている。
  - 地域のリーダーやボランティアが求められている。
  - 若い世代はボランティア活動に対してハードルの高さを感じている。
  - 福祉に関心が高く、良心的な意見が多い。
  - 相手の心を思いやり、当事者理解を深める機会が求められている。
  - 社協と住民、社協と行政、社協と関係機関の連携と協働が必要。
  - 社協の強みであるスピード感と柔軟性を活かした活動の展開が求められている。
- 等々

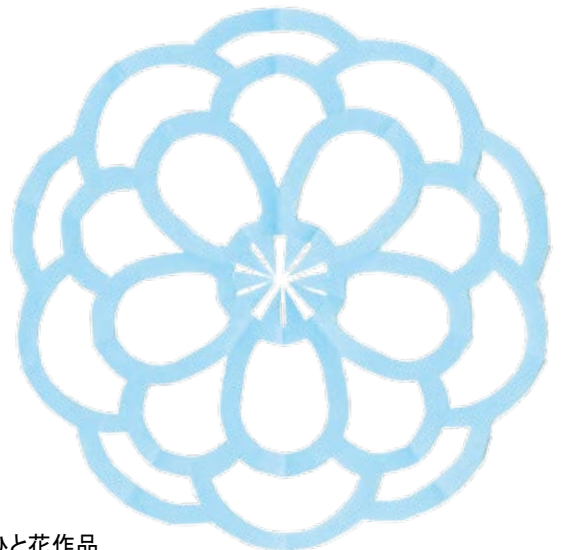
これらを盛り込んだ  
計画を策定しました。

- ★相談体制の強化
- ★違いを認め合う福祉教育
- ★先への不安を取り除く福祉サービスの展開
- ★誰もが活躍する場づくり
- ★ひとりぼっちをつくらない地域づくり
- ★見守りあい支えあう地域づくり
- ★ボランティア活動の活性化
- ★防災・減災への取り組み

## 2 策定委員会での意見

『社協地域福祉推進計画の意義と共生社会について』の講義を聞き、印象に残ったこと』

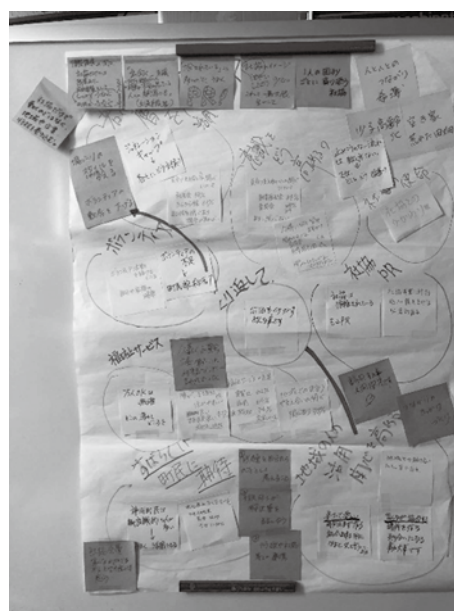
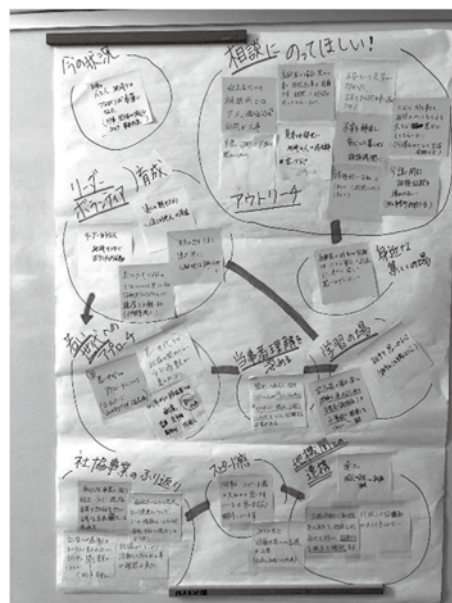
- 行政とは異なる、社協の活動計画の必要性  
先導的な活動が社協に求められている。
- 地域共生社会の実現に向けた活動の方向性
- 地域福祉とまちづくりを一体的に進める～人口減少時代の地域づくり～
- 「地域福祉ネットワークづくり」を進める  
～人と人の力合わせ・話し合いの場づくり～
- 「P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）から  
「O（観察）O（状況判断）D（決定）A（実行）」
- アンケートを活かすことが大切→いろんな立場の人からのアイデアを募集する。
- 当事者を含めた住民みんながいきいきと生活する→『共生社会』
- みんなが参加できる心を持つことが大事
- みんなで共有する
- 「断らず」「いったん受け止め」「親身になって寄り添う」
- PDCA サイクル 他分野とのコラボ 親身になって寄り添う
- コラボ活動  
3時4時（日常の生活の中で下校時間の見守りを→他にも活かせる）
- いきいきと…  
認知症は嫌がられる。これまでのご本人との付き合いや特性にもよる。  
膝をつき合わせた話し合いが大切  
ケアマネが地域に入っていくことが求められているが、その為の『礼儀』『ケアマネのスキル』が必要  
横ぐし… 何があるか？  
ケアマネは家に入るので、高齢者だけでなく障がいを持つ人や引きこもりの人、子ども等々を見る。協働が大切  
次世代へ…リーダーが必要  
住民学習 福祉教育 地域の目標を作る
- あるものをうまく活用する  
こんな地域にしたいというビジョンを話し合う  
担い手がない→顔が見える人達とのコラボ  
ネットワークづくり  
こんな地域にしたいという目標
- 小地域から地域づくりの輪を広げていく  
話し合いの場づくり  
住民同士の密な繋がり



多機能型事業所ひと花作品

## 『アンケート結果から感じたこと』

- 住民の希望 「相談にのってほしい」  
「訪問してほしい」  
「不安を解消したい」  
「身近な所で集い場を」
- リーダー・ボランティアの育成  
「住民の力を集めて、  
ともに幸せな神河町に」
- 学習の場 「相手を思いやる心」  
「当事者理解を深める」
- 若い世代へのアプローチ
- 社協について 「既存の事業の評価点検」  
「スピード感」
- 他機関との連携 「行政との連携と協働」
- 少子高齢化の流れは止められない→その中で、  
何をどうしていくか
- 万人受けは無理
- 福祉に関心がある。良心的な意見が多い。
- 若い層へのアプローチ  
「ジェネレーションギャップにどう対応するか」
- 町民総ボランティア  
「ボランティアの敷居を下げる」
- つながり合い
- 当事者の気持ち  
「見守りや支え合いへの関心が無い人が多い」  
「近隣に関わってほしくない人はいない」
- 社協へのエール  
「社協は信頼されている」  
「社協だけでは限界がある」  
「アウトリーチ」  
「たくさんの事業、うまく PR しよう」



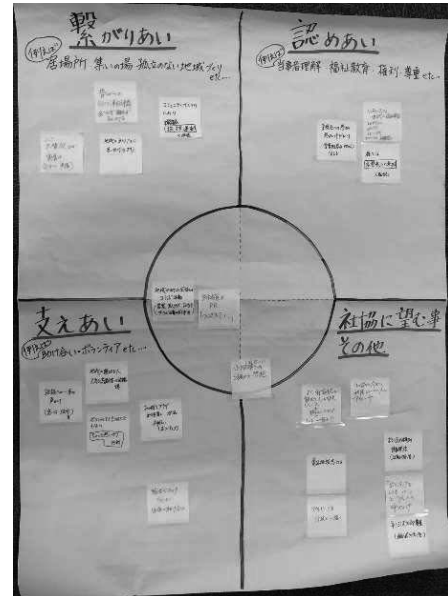
アンケート結果から感じたこと、読み取れることを出し合い、模造紙にまとめていきました。必要なこと、求められていることがわかってきました。



## 『住民が出来ること』

### 繋がりあい

- 昔ながらの「向こう三軒両隣」  
※つかず離れず気にかける。
- 地域のまつりごと（祭り・祀り）に若い世代を誘う。
- コミュニティづくりのための「挨拶運動」の推進
- 民生委員もPR「つながりますよ」
- 地域や町の団体とのコラボ活動（営農、老人クラブ、子ども会、サークル活動の団体など）
- 声かけ、見守り活動
- 多世代交流（地域行事、地域⇔学校、イベント）で繋がりづくり
- 参加への呼びかけ
- いろんな機会に顔を出して知り合う。
- 若い世代や転入者 ※声かけ
- クリーン作戦（年2回）※繋がるきっかけ
- 消防団 ※若い男性の繋がり
- 心豊かに生活するために、個人個人の繋がりを大切にしていける。それが小さな支えに繋がる。



### 認めあい

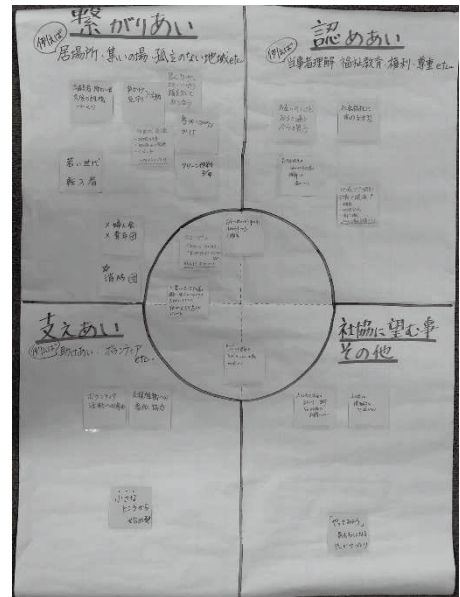
- 学習会への参加、参加の呼びかけ、学習内容を他の人に伝える。
- いろいろな世代の福祉学習 ※20代まで 40代 60代～
- 様々な学習会への参加（人権含む）
- お互いの心を知り合うことで通じ合う。
- 社会福祉にかかわる学習
- それぞれ住民のこれからの生活像を理解して協力していく。
- 地域ケア個別会議の開催 ※当事者×地域住民×専門職が一緒に考える場を作る。
- お互いを「認めあうことが出来る」「ほめ合うことが出来る」人間関係

### 支えあい

- 相談への一歩の声かけ（窓口紹介など）
- 地域の親切な人、元気な高齢者の活躍の場
- ボランティアと言うほどでもない「ちょっと思いやり行動」
- おゆずりプラザ利用者→次回のお手伝いを
- 総ボランティアをアピール 日頃の助け合い
- 小規模（両隣り）での活動を啓発
- ボランティア活動への参加
- 支援組織（協議体など）への参加・協力
- 小さなところから始める。
- 「ちょっといいこと運動」を、年代を超えて出来る地域に！

## 社協へ望むこと、その他

- 社協広報紙でPRしている→読めていなかった→もっと一目で(わかりやすく)！！
- 社協と今まで関わりのなかった人達へのアプローチ
- 電話相談窓口を
- アウトリーチを行政と一緒に
- ボランティア活動の情報発信（活動内容等）
- 「ボランティアをしてもいい」と言う人への呼びかけ
- 年1回ボランティア募集（個人ボランティアも）
- ボランティア活動の紹介をお願いしたい。
- 社協は積極的な取り組みを！
- 「やってみよう」と言う気持ちになるきっかけづくり



## 『社協がやること』

- 福祉学習・・・人権教室への参画（教育課との協働）  
人権教室参加者は限られてきている→CATV を活用して発信する  
内容の充実
- 相談・・・地域民生委員児童委員など相談窓口を周知する。  
守秘義務の研修  
SOS が出せない人へのアプローチ→アウトリーチ  
「どんなニーズも断らない」のために相談しやすい窓口づくりを。  
社協でできること、関係機関へ繋ぐこと
- 福祉活動・・・活動助成の拡大、拡充  
活動内容の情報提供  
活動へのきっかけづくり
- 福祉サービス・・・支援を受けやすい環境作り

『地域共生社会』の実現に向けて、住民に出来ることと社協がやるべきことを整理しました。





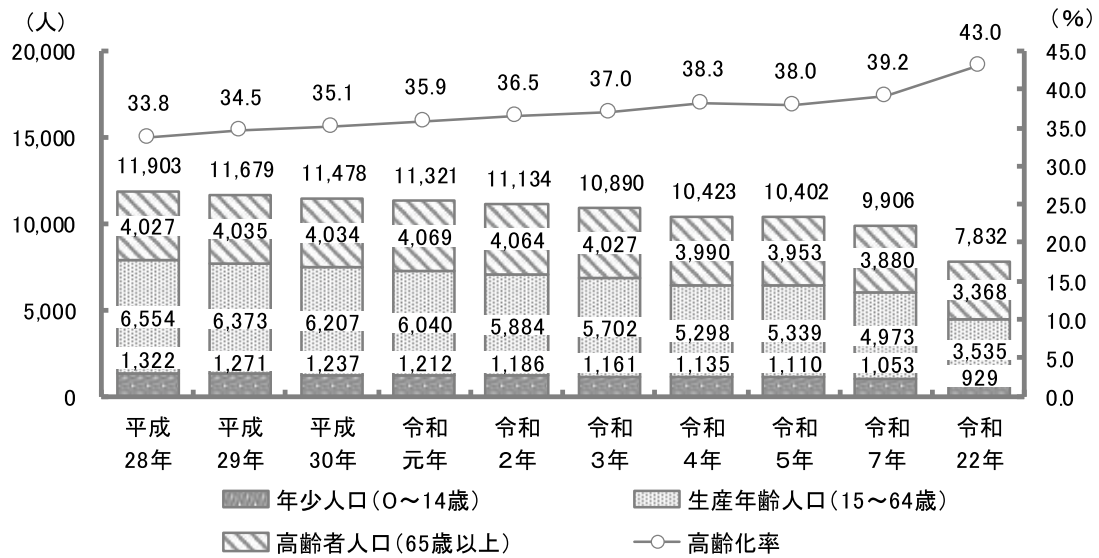
### 3 神河町の現状

#### (1) 集落別年齢別人口と一人暮らし高齢者世帯

令和3年2月1日現在

集落名	世帯数	人 口	0～14 歳	15～64 歳	65～74 歳	75 歳～	高齢化率	75 歳以上 独居
新 田	25	53	0	23	11	19	56.6%	4
作 畑	41	78	1	24	18	35	67.9%	12
大 畑	82	204	8	85	42	69	54.4%	14
越 知	123	286	18	126	54	88	49.6%	18
岩 屋	71	179	8	92	38	41	44.1%	5
根宇野	127	356	26	171	69	90	44.6%	8
山 田	162	478	37	269	71	101	35.9%	11
中 村	292	814	105	476	114	119	28.6%	14
栗賀町	162	446	60	216	95	75	38.1%	10
福 本	317	839	109	477	120	133	30.1%	17
貝 野	95	221	30	120	34	37	32.1%	7
寺 野	134	325	27	175	65	58	37.8%	13
柏 尾	104	277	43	156	49	29	28.1%	1
加 納	102	272	32	162	37	41	28.6%	3
東柏尾	109	297	37	144	56	60	39.0%	5
吉 富	229	701	61	380	125	135	37.0%	7
杉	91	257	23	133	47	54	39.2%	4
大 山	99	252	22	110	51	69	47.6%	8
猪 篠	134	357	23	184	78	72	42.0%	4
しんこうタウン	54	193	66	125	2	0	1.0%	0
新 野	143	369	36	198	67	68	36.5%	9
野 村	139	322	31	166	53	72	38.8%	15
比 延	68	151	30	65	28	28	37.0%	7
寺 前	346	939	140	550	105	144	26.5%	21
鍛 治	126	300	29	162	52	57	36.3%	10
大 河	90	264	29	135	50	50	37.8%	4
上 岩	72	179	13	96	30	40	39.1%	7
高朝田	94	266	35	139	43	49	34.5%	2
宮 野	51	152	21	76	29	26	36.1%	5
南小田	138	360	29	182	60	89	41.3%	11
上小田	71	177	8	84	41	44	48.0%	7
川 上	68	161	6	81	30	44	45.9%	13
大川原	34	70	7	28	11	24	50.0%	4
本 村	57	157	12	80	29	36	41.4%	6
赤 田	30	65	4	25	13	23	55.3%	2
重 行	17	46	3	23	16	4	43.4%	0
為 信	19	41	2	17	10	12	53.6%	1
峠	10	28	2	13	4	9	46.4%	0
栗	67	156	13	71	36	36	46.1%	6
淵	12	24	0	11	3	10	54.1%	2
合 計	4,205	11,112	1,186	5,850	1,886	2,190	36.6%	476

## (2) 人口の推移と今後の見込み



資料：実績は住民基本台帳（各年10月1日現在）、推計は総合計画推計値より

## (3) 障がいのある人の状況

### ○身体障害者手帳保持者

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
635名	608名	585名	569名	547名

### ○療育手帳保持者

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
137名	143名	139名	147名	156名

### ○精神障害者保健福祉手帳

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
45名	48名	47名	56名	58名

資料：健康福祉課

## (4) 介護保険認定者の状況

令和2年9月現在

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
94名	122名	147名	126名	105名	93名	105名	792名

資料：健康福祉課

## (5) ひとり親世帯の状況

令和元年度末

	父子家庭	母子家庭
世帯数	9世帯	99世帯

資料：住民生活課

(6) 生活保護世帯の状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
世帯数	26 世帯	30 世帯	24 世帯	27 世帯	25 世帯
人 数	32 人	39 人	29 人	32 人	30 人

資料:健康福祉課

(7) ボランティアグループ登録状況の推移

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
114 グループ	107 グループ	105 グループ	99 グループ	99 グループ

資料：社協ボランティアセンター

(8) 日常生活自立支援事業利用件数の推移

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
7 件	10 件	10 件	10 件	10 件

資料：社会福祉協議会

(9) 生活福祉資金貸付事業利用申請件数の推移

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
7 件	7 件	6 件	6 件	6 件

資料：社会福祉協議会

(10) ひきこもりの人の状況

令和元年11月現在

20代	30代	40代	50代	60～64歳	合計
6 人	19 人	15 人	9 人	2 人	51 人

資料：神河町ひきこもり状態に関する実態調査



多機能型事業所ひと花作品

#### 4 第3次地域福祉推進計画策定委員会設置要綱

##### (目 的)

第1条 この要綱は、社会福祉法人神河町社会福祉協議会（以下「社協」という。）が地域福祉推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）の設置等に関する必要な事項を定めることを目的とする。

##### (組 織)

第2条 この委員会は、社協会長の諮問機関として、社協会長が委嘱した委員7名と、アドバイザー1名をもって組織する。

##### (任 期)

第3条 委員の任期は、委嘱した日から令和3年3月31日までとする。

2 予期せぬ社会事情により策定が遅れた場合は、この限りではない。

##### (正、副委員長)

第4条 この委員会に委員長1名、副委員長1名を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は委員会を統括する。

3 副委員長は、委員会を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

##### (会 議)

第5条 委員長は委員会を召集し、会議の議長となる。

2 委員会の開催は、半数以上の委員の出席を要し、その議事は出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは委員長の決するところによる。

##### (関係者等の出席)

第6条 委員会は、計画の策定上必要であれば関係者に出席を求め、意見を聴くものとする。

2 社協会長は必要に応じ、会議に出席し、意見を述べることができる。

##### (職員部会)

第7条 策定作業を円滑に進めるため、社協職員で構成された職員部会を置く。

2 職員部会は委員会から出された課題を協議し、その結果を委員会に提案する。

##### (費用弁償)

第8条 委員が職務で会議等に参加した場合、1回につき2,000円を費用弁償として支給する。

##### (補 則)

第9条 この要綱に定めのあるもののほか、委員会に関する必要な事項は、委員長が別に定める。

##### 附 則

この要綱は、令和2年8月4日から施行する。

## 5 策定委員会・職員部会開催状況

### 策定委員会

回	開催日	主な協議内容	出席 委員数
1	令和2年 8月4日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定委員委嘱状の交付</li> <li>第3次地域福祉推進計画策定委員会設置要綱の承認</li> <li>委員長、副委員長の選任</li> <li>研修会 「社協地域福祉推進計画の意義と共生社会について」 講師 兵庫県社会福祉協議会地域福祉部 副部長 松本裕一氏</li> <li>意見交換</li> </ul>	7人
2	令和2年 8月24日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次地域福祉推進計画の振り返り</li> <li>神河町長期総合計画（地域福祉計画）との関連の必要性について</li> <li>アンケートについて</li> </ul>	7人
3	令和2年 10月27日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果について</li> <li>グループワーク 「アンケート結果から感じたこと」</li> </ul>	7人
4	令和2年 11月30日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク 「住民ができること・社協がやること」</li> </ul>	7人
5	令和2年 12月21日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク 「総合体系図について」 「総合目標について」</li> </ul>	7人
6	令和3年 1月25日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合目標について</li> <li>計画の推進期間と進行管理について</li> <li>計画書の骨格（章立て）について</li> </ul>	7人
7	令和3年 2月8日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイジェスト版について</li> <li>計画書素案について</li> <li>策定後の活用について</li> </ul>	7人

### 職員部会

第1回の研修会に参加し、社協地域福祉推進計画の意義と共生社会について学ぶ。その後、アンケートの設問や結果から読み取れること、活動目標について意見を出し合い、協議しました。

## 6 第3次地域福祉推進計画策定委員会名簿

### 策定委員

	氏 名	選出区分	備 考
委員長	佐 古 正 雄	社協監事	
副委員長	三 谷 伸 子	社協評議員	地域代表
委員	前 田 順 子	社協理事	
委員	立 岩 千 咲	社協評議員	民生委員児童委員協議会
委員	戸 田 賢 二	〃	神河町身体障害者福祉会
委員	方 山 紀代子	〃	神河町共励会
委員	高津佐智香子	行 政	健康福祉課

(敬称略)

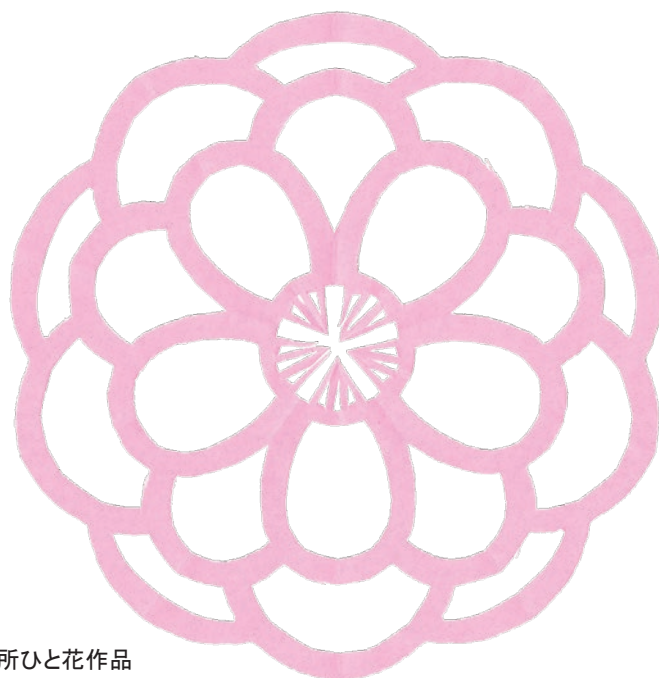
### アドバイザー

松 本 裕 一	兵庫県社協地域福祉部副部長
---------	---------------

(敬称略)

### 事務局

難 波 義 博	事務局長
藤 原 美 恵	事務局長補佐



多機能型事業所ひと花作品



## 神河町社会福祉協議会 第3次地域福祉推進計画

令和3年3月発行

編集・発行 社会福祉法人神河町社会福祉協議会

〒679-2414 兵庫県神崎郡神河町栗賀町630

TEL 0790-32-2303 FAX 0790-32-2700

mail k-syakyo@kcni.ne.jp